

第1回外部評価委員会会議録

日時：平成27年8月28日（金）

午後1時30分から午後3時5分

場所：県庁10階 特別大会議室

（1）教育研修業務の評価

・農業大学校の現状と今後の方向について

資料により説明。

（質疑）

委員：アグリビジネススクールに農業機械講座が開設されているが、農業大学校の本科には、農業用機械のカリキュラムはあるのか。

回答：非農家率が高く、家で農業をやったことがない学生や、農家出身でも経験のない学生が多くなっている。農業高校から進学した学生はそうでもないが、全く農業経験のない学生もいるので、一年生では畦立てや鎌の使い方から教えている。刈払機は危険を伴うので講習を受けてから扱うようにしている。トラクターは練習用の圃場を用意し、耕運の練習を行っている。希望する学生は大型特殊免許を取得している。中には、機械の整備について、深く追求する学生もいる。免許を取った学生は、自らトラクターや運搬車を使っている。

委員：一年生と二年生の満足度に差があるが、理由は。

回答：この二年生が一年生のとき、90%であった。卒論、就職などに手取り足取り指導した結果ではないか。年色はあるが、出来るだけ満足度を高めていきたい。

委員：満足度のデータは毎年とっているのか。一年生から二年生の変化は見えるのか。統計的に長めに時間経過を見ればよくわかるのではないか。

回答：毎年取っている。一年生の最初は目標が定まっていない学生が多いが、二年生に進級すると、プロジェクト活動や就職活動を通じて将来を考えるようになるため、満足度が上がっていると思われる。

委員：専修学校化により、4年生大学への編入が可能となり、愛媛大学農学部の2年次編入試験に合格しているが、3年次編入はできないのか。

回答：3年次編入も可能だが、今回は2年次編入となった。大学によって、編入時期に違いがあるようである。

委員：卒業後の進路状況について、未定が多いことが気になっていたが、低くなっているので安心した。

回答：景気の回復により、求人状況は良くなっているので、100%を目指して努力していく。

委員：最近ICT技術の進展により、農業技術やノウハウがデータベース化され、今まで経験でしか分からなかったことが、数値化されており、取り入れていくべきであると思うが。

回答：学生はICTを活用し、情報を収集している。先進的な農業者のノウハウがデータで入手できれば、学生の指導に活用できるのではないかと考えている。農業大学校の施設では、高度な環境制御技術のデータを使った農業生産は出来ていないのが現状である。試験研究部門では取組が始っており、ノウハウが蓄積されれば、教育研修部門でも積極的に取り入れていきたい。

委員：インターンシップについては、県外の農業系大学生を対象としているのか。

回答：現在は、県外の大学生を対象に実施しているのが、今後は、農学系の生物資源産業学部が新たに設置される徳島大学や農業高校等にも対象を広げていきたい。

委員：東京や大阪の百貨店で販売を実施しているが、学生の評判はどうか。

回答：売ることの大変さを実感したようである。大阪では量が多く価格の安いもの、東京では価格は高くても品質の良いものが好まれる傾向にあり、地域により違いがあることを身をもって体験し、農業経営の参考になったようである。

委員：林業の現場で実感しているが、農業でも人材育成は大変難しく、やりがいのあることである。進路未定者が減っているのは先生方の努力のお陰である。今後とも人材育成を進めて行くには先生方の努力が必要ですので、引き続き、よろしくお願いしたい。

委員：模擬会社「徳島農大そらそうじゃ」の取組で、4色スムージーを販売しているが、原材料は何を使用しているのか。

回答：原材料は、スイートコーン、ほうれんそう、ブルーベリー等を使用しており、ほとんどが農大産である。好評であり、ほぼ完売することができた。なお、スイートコーンについては、量が多くなるとノド越しが悪くなるので、少し売れ残ったようである。

委員：農業は6次産業化等により魅力的になってきているように思うが、もっと高校生や一般の人にわかってもらえるよう宣伝の方法はないのか。

回答：今年の入学者は21人と非常に少なかった。その中で、農業高校出身者が半数を占めている。農業高校でも非農家率が高くなっており、農業に興味を持っている生徒も少ない傾向にあるため、農業高校からの進学に頼っても難しい状況である。社会人、大卒の方にも積極的にPRできる方法を検討中したい。また、OBやサポーターの方にも協力をいただき情報発信を行って行きたい。

農業高校についても、3年時点では進路が決まっているため、もっと早い段階から、農大に好印象をもっていただけるよう、収穫祭等の行事に参加をしてもらっている。青年就農給付金など支援制度が整備されており、非農家でも強い意思があれば就農できるので、今まで以上に、普通高校でもPRを行い、意欲ある学生を集めたい。

（2）平成26年度外部評価結果の反映状況報告

農業大学校長，高度技術支援課長，吉野川農業支援センター所長から
平成26年度の評価に基づく反映状況について報告。